

2025年
3月1日
第493号



JR東海労



〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5

TEL 03-3201-0350 FAX 3201-0351

Eメール jrtoukairou@yahoo.co.jp

JR東海労働組合

発行人 淵上 利和

編集人 高山 浩

http://jrtoukairou.sakura.ne.jp/

春闘を通じて組織展望を切り拓こう！

第38回定期中央委員会

JR東海労は2月11日、名古屋市中区第38回定期中央委員会を開催しました。司会は畑野副委員長が行い、議長に木下中央委員(新幹線地本)を選出しました。来賓として、JS労楽委員長、本部OB会増田会長が出席しました。

今委員会で、査問委員会からの答申を受け、藪秀一君、田村浩彰君、森下暢紀君の除名を全中央委員の賛成多数で決定しました。質疑応答、総括答弁の後、淵上委員長の団結ガンバローで委員会は成功裡に終了しました。

JR東海労排除でJR総連は破滅の道へ

淵上執行委員長挨拶(要旨)



第42回臨時大会において、JR総連からの脱退を決定し、翌12日にJR総連に脱退を通告しました。JR東海労の闘いと



運動を妨害する人たちはいなくなり、JR東海労は闘う労働組合として、JR東海、関係会社で働く社員、そして、全ての労働者との連帯を目指して、今2025春闘を闘っていきま

18春闘でJR東海労組が格差ベア絶対反対を掲げストライキで闘うとしたが、会社によるJR東海労組の破壊、組織分裂に終わり、JR東海労組の破壊に留まらずJR総連の存亡の危機を招く事態をつくり出してしまいました。この時点で、JR総連の単組への指導力は崩壊していたということ

00円としていますが、統一要求、統一闘争の文章はありません。JR総連としての統一要求・統一闘争は形式的にも無くなったということです。JR総連がJR東海労を除名したことによって、JR総連は自らが産別としての求心力を喪失し、崩壊していく過程にあることを、『JR総連通信』が現していると思えます。それは、JR総連が産別として加盟単組の意思と組織的現実を無視し、JR総連の指導・指示が絶対であるとする意識、姿勢に陥っている事に至っては起因します。JR東海の「命令と服従」の関係と同じです。そこに、産別と単組の信頼関係はつくり出せません。

山口委員長は「職場を良くしようという経営陣の気持ちや中間管理職に伝わっておらず、労働組合敵視すら感じる。そのねじれを糾すために徹底的に闘う」と言っています。問題は「会社の政策を放棄しているのです。JR東海労組加藤委員長は「このような経営姿勢に対して、健全ではない事態に対して、自覚をもつてつくり替えていく年にしていかなければならぬ」と述べています。異常な社員管理に対して闘う年にするのではなく、事態を自覚する年にするとしていくのです。まさに御用組合です。

私たちは、JR東海労らしく職場の問題を問題として闘い、その闘いを通じてJR本体と関連会社、企業内の組織化に留まらず、組織拡大を実現していくために奮闘していきます。組織拡大の対象に壁はありません。それがJR総連運動からの決別です。リニア建設反対の市民団体と連帯を更に強化していくために、環境破壊の現場への視察などを名古屋地本と連携し、OBの協力を得ながら具体化していきます。労働組合の組織率は16%代まで低下し、多くが未組織労働者です。従って、未組織労働者との連帯を目指します。その具体的な取り組みとして、「労働者支援相談センター」を立ち上げたいと思

闘いによって変えてきた職場 JS労柳楽執行委員長挨拶(要旨)



JS労は、結成後1年8ヶ月が経ち、14回の団体交渉を行いました。これらの交渉により、僅かですが要求は実現しています。何より、サービックからすると、やらなくともいい団交をしなければならぬし、聞かなくともいい要求を聞かざるを得ない状況をつくり出しているということに大きな意味があります。

勤が分かるのです。しかし、サービック労組は何も言いません。見て見ぬふりをしています。JS労ができて、会社に言ってくれる、要求してくれている、というのが認知されることに一番困るのはサービック会社です。だから、組合掲示板の便宜供与も認めず、「貴組合とは信頼関係がない」として労働協約も締結しません。この言葉は、「弾圧から30年、9・10集会」で、JR総連山口委員長からの「会社から信頼されない」と、全く同じです。そして、未だに「二重加盟はおかしい」と言っているのが、セン

同じ立ち位置になったという事です。JS労結成を契機にして、様々な動きの本質がこれです。車両所分会の新年会で、JR総連が変質して権力の側に立ったことについて、OBの先輩は「JR総連は変質したのではない。今の姿が本質であり、松寄さんが存命の時は、闘うポーズをとっていただけだ」と言いました。これを聞いて、なるほど、言われてみればその通りで、スッキリしました。だから、JR東労組の崩壊は必然であったということになります。

7年に当時のJR東労組委員長らに「ダラ幹」と批判し、「D型もD民同へ潤谷に」と詠み言しました。その幹部らは、民同の本

領を發揮し、会社の意向を受け、松寄さんの闘いを引き継ぐ役員を排除し、JR東海労を排除しました。

OB会は、組織破壊攻撃に対決してきた闘いで得た教訓を組織強化に活かし、そして地域に闘いを広げていきます。

組織破壊攻撃を許さない実践的闘い 自信を持った発言相次ぐ

◆2018年の一方的休日出勤再開反対の闘いで、2019年1月の臨時大会でスト権を確立するはずでしたが、支援すべきはずのJR総連が、5連協を口実にスト権確立を認めませんでした。本間に5連協がストに反対したのか、当時の役員

合を目的とするタンク浦と、近畿地協定期委員会での「デツチ上げ組織破壊行為」を口実に、一挙にJR総連がJR東海労を排除に舵を切ったのです。原告2名と共に津崎裁判を闘うことにより、

者として協力してもらおうために、OB会員との繋がりを強化します。◆3月ダイヤ改正の説

の観念で判断したのではない。美世志会が解雇されてストができない理由として「非現業の組合員がいるから」と言ったJR東労組の某方と同じ言い訳のようで、今でも疑問は払拭できません。しかし、私たちはそれに諦めることなく、臨時大会以降、一方的休日出勤反対を訴え、全港湾関西地本、全港湾神戸支部に支援・連帯を取り組みました。水野さん、寄本さん、池田さんが相次いで加入、年休権本人訴訟、

212裁判の闘いなど第三者機関を活用し、職場闘争として発展させ、スト権確立を妨害されても組織拡大など多くの成果を勝ち取りました。最大のポイントがJS労結成です。闘う労働組

◆9月26日、袴田さんの再審判決公判があり、本部・各地本・OB21名が地裁前に結集し、無罪判決の喜びを分かち合いました。10月29日には「袴田さん再審完全無罪報告集会」を地本主催で開催しました。

36条協定があるからといって、本人の承諾も打診もなく一月に2回も3回も公休や特休に休日出勤を指定していました。勤務発表で初めて休日出

を混乱させる目的だろうと思います。本部OB会解散の目的は、新幹線地本OB会をまるごとセン労を支持するOB会にするためです。しかし、臨時総会が始まる前に結論は出されていきました。それは、名古屋地本OB総会で、JR総連支持派を一掃し、

う。私たちは、総会を続行し、新役員を選出しました。あれをやつたと自慢する元委員長がいます。闘ってきたのは現場組合員であつたことを忘れては困ります。理論派の方はマルクス主義を勉強してきたのでしようが、理論は現実の運動に適用されて初めて活きるのです。現実の捉え方が主観的であつたり、歪んでは理論を適用しても誤つてしま

◆浦谷さんが昨年9月、休憩裁判を提訴しました。第1回口頭弁論で浦谷さんは堂々と意見陳述をしました。災害や異常時を理由に、休憩時間を与えず、人間を機械や虫けらのように扱う会社

◆私たちはJR総連と決別して、新たな道を堂々と歩み始めました。しかし、地本OB会長は「JR総連と共に」を続けています。地本旗開きへの出席は不適当であること

OB会長が地本のIDで、会議室を無断で使用しました。またOB会長

JR東海労排除を許さず闘う！ 本部OB会増田会長



JR総連の意を受けてJR東海労組織破壊をかけてきた一部OBらが行った反労働者性を暴き出し、一掃し、JR東海労OB会を当たり前の組織として確立するために取り組みます。

1月23日の臨時総会でJR総連支持派の旧役員は、規約を改正し、本部OB会解散しようとしてきました。解散の根拠はなく、まとめることができないのなら、辞職すれば良いのです。理由は「運動体の組織方針を持ち込んだから混乱した」とされていますが、そもそも最初に持ち込んだのは福島会長が発した文書です。OB会とJR東海労

総会を潰した」と言っていますが、傍聴者を認めれば総会は混乱なく開催できました。彼らは、逃げ場を求めていたのでしょ

◆現職を支持・連帯してもらおうためと、セン労を支持する輩がやっている薄っぺらな声かけではなく、東海の地に労働運動の灯を残すための賛同

◆3面にづく



木下議長

は、副会長及びOB会有志一同が郵送した書簡を「受取辞退」しました。地本は、OB会会長を直ちに退任することを、書簡で要求しました。

◆昨年1月、松山さんに対し山田氏から「新しい組織を立ち上げられないか」との介入がありました。その頃からJR東海労を割る計画があったと怒りを感じます。

◆これまでJR総連の妨害により認められていなかったOBの組合員で、OB6人が組合員になると決意しました。共に進んでいきます。

◆地本OB会は、1月18日の総会で新体制となりました。当日、今井会長ら有志4名が会場に現れましたが、「この場合はJR東海労運動を支持する人たちの場であり、JR総連を支持する方が来る場所ではない」としてお引き取り願いました。山田氏だけが退会届けを提出しました。

◆約1年前、電話で本部批判をし、探りを入れ

てきました。彼は、「この考えの人がいる」などと言いい、信憑性は疑問でした。事実が分からず、本部や地本が発行した情報を読んだり、説明を受けて内容が掴めてきました。役員が彼に連絡を取ると「そんなことは言っていない」とウソをついたので、彼は信用できないと確信しました。

JR東海労に対するJR総連の対応、態度に違和感を感じていました。JR総連は変質したというのが率直な感想です。JS労結成を理由の1つとして除名するというのは、労働組合の理屈として成り立ちません。

電話してきた人は、「上部機関が無くなる」と言いましたが、上部機関があるが無かるのが、JR東海労はJR東海労です。JR東海労がJR東海労で立ち位置も価値観も変わっていません。前を向いて、JS労やOBの方たちと共に進めば好いのです。

◆JR総連第41回臨時大会で小林書記長は「問題の核心はJS労の二重加盟」と総括答弁しました。現場の闘いを何も知らない、分かつうとしない現在のJR総連指導部の質です。総括答弁は、労働者の立場ではなく、会社の立場に立った答弁であり、現在のJR総連指導部の本質です。

◆津崎裁判第3回口頭

弁論は、弁論準備Web会議に変更されました。被告代理人は「遠方であり大変」との理由ですが、津崎被告は東京の弁護士事務所に行ったのです。JR総連傘下の組合員は、真実を知らされていません。セン労にカンパするより、JR東海労組合員の「パワハラ裁判」を支援すべきです。津崎裁判は、誰が嘘をついているのか、誰が私たちの組織を破壊したのかを明らかにするための裁判です。近畿地協定期委員会での組織破壊攻撃デッチ上げのために、津崎文書を書かせたのはM組の舟山さんです。

◆脱退により職場の組合員が撤去されてきました。苦情申告を行いましたが開催には至りませんでした。重要な掲示板を奪われたという事は、非常に大きな損失です。この状況をつくり出した一因は、地本OB会からの脱退策動で、犯罪性が浮き彫りになりました。地本OB会幹事会の面々は、私たちの取り組みに妨害してきました。三度に渡って議論しましたが、ついに私たちの方針を支持しませんでした。最後はOB会員を巻き添えにして退会し、「セン労OB会」なるものを立ち上げたようです。ほとんどのOB会員は訳も分からず、過去の栄光を傘に着た幹事会の面々の口車に乗せられたのではないかと行く末を危惧しています。地本は、常識的な真面目な先輩方と連携して、地本OB会を盛り立

て、共に闘います。◆地本は、組織破壊策動に抗して、職場集会を開催し、組合員と真剣な議論を行ってきました。その中で、JR総連が変質したことを確認し、当たり前前の運動をこれまで通り続けることを確認し合いました。

労働組合らしく闘おう！ 本橋書記長総括答弁



2025春闘は、私たちのみならず、他労組組合員の生活を守る立場からもしっかりと闘いをつくり出します。JS労結成を契機に、

JS労結成を契機に、

せん。重要な掲示板を奪われたという事は、非常に大きな損失です。この状況をつくり出した一因は、地本OB会からの脱退策動で、犯罪性が浮き彫りになりました。地本OB会幹事会の面々は、私たちの取り組みに妨害してきました。三度に渡って議論しましたが、ついに私たちの方針を支持しませんでした。最後はOB会員を巻き添えにして退会し、「セン労OB会」なるものを立ち上げたようです。ほとんどのOB会員は訳も分からず、過去の栄光を傘に着た幹事会の面々の口車に乗せられたのではないかと行く末を危惧しています。地本は、常識的な真面目な先輩方と連携して、地本OB会を盛り立

て、共に闘います。◆地本は、組織破壊策動に抗して、職場集会を開催し、組合員と真剣な議論を行ってきました。その中で、JR総連が変質したことを確認し、当たり前前の運動をこれまで通り続けることを確認し合いました。

◆出向先会社での超勤手当未払いが発覚し、3年分の支払いを獲得できました。職場環境の改善も勝ち取りました。また、ダイヤ改正では他労組組合員の声を基に、行路交番の改善反対の闘いをつくり出しました。春闘、職場や出向先における諸問題などの改善、リニア建設反対、平和を希求する闘いなど、職場・企業内に留まらない活動を行っています。

◆今委員会で、査問委員会から11月14日に脱退を表明した3名に対して「除名」とした「答申書」が提出されました。この3名を含めた24名の脱落者は裏切り者であり、許されません。JR総連と脱落者らと組織破壊を仕掛ける一部OB、特に新幹線地本のOB会幹事について、絶対に許さない闘いを推し進めようではありませんか。

◆今回の組織破壊攻撃により、少なからず職場からの闘いに影響が出ています。組合掲示板が撤去された職場もあります。

下を支える一などと、何の根拠もなく呪文のように唱えている輩は、JS労の結成に至る仲間の苦勞や思いを全く理解せず、「関西のやることすべて反対」と言わんばかりの組織破壊攻撃を仕掛けてきました。JR総連は、JR各単組の集合体であり、加盟単組の闘いを支援・連帯するべきです。当然、JS労結成は組織拡大として評価されるべきです。しかしJR総連は、JS労結成を否定し、加盟単組であるJR東海労を破壊し、その脱落者らでセン労なる「労働組合」をデッチ上げるなど、前代未聞の組織破壊攻撃を行ったのです。脱退した者たちに組織的な活動ができるとは到底思えません。まさに「烏合の衆」です。

◆今委員会で、査問委員会から11月14日に脱退を表明した3名に対して「除名」とした「答申書」が提出されました。この3名を含めた24名の脱落者は裏切り者であり、許されません。JR総連と脱落者らと組織破壊を仕掛ける一部OB、特に新幹線地本のOB会幹事について、絶対に許さない闘いを推し進めようではありませんか。

◆今回の組織破壊攻撃により、少なからず職場からの闘いに影響が出ています。組合掲示板が撤去された職場もあります。

◆今回の組織破壊攻撃により、少なからず職場からの闘いに影響が出ています。組合掲示板が撤去された職場もあります。

しかし、私たちはそこで怯むわけにはいきません。他労組組合員や関連会社社員を対象とした情報を幅広く伝えられるよう、ホームページの活用、情報の手渡しやビラ配布など具体的な取り組みをつくり出さなくてはなりません。

◆今回の組織破壊攻撃により、少なからず職場からの闘いに影響が出ています。組合掲示板が撤去された職場もあります。

◆今回の組織破壊攻撃により、少なからず職場からの闘いに影響が出ています。組合掲示板が撤去された職場もあります。

◆今回の組織破壊攻撃により、少なからず職場からの闘いに影響が出ています。組合掲示板が撤去された職場もあります。

◆今回の組織破壊攻撃により、少なからず職場からの闘いに影響が出ています。組合掲示板が撤去された職場もあります。

◆今回の組織破壊攻撃により、少なからず職場からの闘いに影響が出ています。組合掲示板が撤去された職場もあります。

◆今回の組織破壊攻撃により、少なからず職場からの闘いに影響が出ています。組合掲示板が撤去された職場もあります。

◆今回の組織破壊攻撃により、少なからず職場からの闘いに影響が出ています。組合掲示板が撤去された職場もあります。

JR東海労連の組織展望を切り拓こう！ JR東海労連第2回定期大会

JR東海労働組合連合会（JR東海労連）は2月11日、名古屋市中で第2回定期大会を開催しました。畑野副委員長長の開会挨拶で始まり、議長に山本代議員（JR東海労）を選出しました。
質疑応答、総括答弁、前田事務局次長の閉会挨拶の後、淵上委員長の団結ガンバローで委員会は成功裡に終了しました。

ABCマートの労働組合に学ぼう！ 淵上委員長挨拶（要旨）



先程開催したJR東海労第38回定期中央委員会、労働者支援相談セ

いる労働者がいます。少しでも労働条件を改善していくために、この間培ってきた経験を活かして闘っていきたいと思います。

ABCマートの労働組合は、1人のパート労働者からの声をきっかけに、5千人の賃金を平均6%上げた報道されています。そこまで闘いをつくってきたということ、私たちの労働運動の経験において、彼女の

連帯が確認できる発言が相次ぐ

◆日本の労働組合の多くは、労働者のための労働組合ではなく、会社側に寄り添っています。どこかの幹部は「会社から信用されない」「会社に迷惑をかけられない」という始末です。労働組合の必要性が問われています。JS労の仲間の職場

からの闘いに敬意を表します。この闘いが求心力を強め、組織拡大に結びつきます。この闘いに学び、共に闘います。

◆JR東海労は、ユニオン組合員の声も要求として、会社と闘ってきまけた。困っている人を助けるのは当たり前です。



り、労働組合活動の原点です。JS労もそこから始まり、団結をつくり出しました。ところがJR総連は、二重加盟は認めないとして、連帯と団結を否定しました。だから私たちは、JR総連と決別したのです。

◆最高裁は年休裁判の警告を不受理にしました。労働運動を国家として認めないことを宣言したという意味です。道は多難ですが、職場に根ざした運動を行い、仲間を増やしていくしかありません。心あるOBの皆さんと連携していきます。

◆JS結成の成果が出ています。しかし、サービック各事業所やサービック労組からの妨害も発生しています。サービック労組は、①マネージャ

JR総連で労連があるところは、JR北海道労組とJR貨物労組だけで、JR東労組は消滅しました。私たちの闘いの中に運動と組織が拡大していく核心があります。JR東海労連の組織展望を切り拓くために奮闘しましょう。

◆最高裁は年休裁判の警告を不受理にしました。労働運動を国家として認めないことを宣言したという意味です。道は多難ですが、職場に根ざした運動を行い、仲間を増やしていくしかありません。心あるOBの皆さんと連携していきます。

ABCマートの闘いについて発言がありました。ABCマートの労働組合「Back up」の最大の注目点は、組合員数は非公表だということ、その上で会社と団交を行い、賃金引き上げなど成果も勝ち取っています。JR総連が「会社に信用されない」などに言ったことは大きな疑問です。JR総連は会社に信用されるために労働運動をやっているのでしょうか。まさに御用組合以下ではないでしょうか。JR総連は「JR連合と二重加盟は認められな

い」などと言っています。JR東海労と共に闘いたいという意思があれば、当面二重加盟でも受け入れるべきです。新大阪駅におけるバリアフリーの検証について発言がありました。JR東海の居丈高な態度が改めて明らかになったと同時に、こうした姿勢を糾していかなくてはなりません。私たちはこの間、リニア中央新幹線建設に反対する市民団体の方たちと交流し連帯感をつくり出してきました。リニアの問題以外にも、憲法9条を守るための闘いも併せて交流しています。私たちの運動領域を広げ、組織拡大の道をつくり出す必要があります。JR東海労連として、共に闘う仲間をつくり出していきましょう。

つくり出した闘いは経験のないものです。全国コミュニティ・ユニオン連合会が立ち上げた個人加盟労組「ユニオンカント」の支部となった、「組合員数は非公表」と書かれていました。ここに私たちの闘いのヒントがあるのではないかと思えます。実践を学ばなければなりません。パート社員が声を上げたとしても、みんな難しいと思っていたと思います。労働組合の結成を通じ、団体交渉を積み上げること、賃上げを勝ち取っています。



（助役）の組合員化を図る。②二重加盟を認めないなどの規約を改正しようとしています。マネージャの組合員化は、サービック労組が接待のために使う資金が必要という情報が入っています。二重加盟を認めないのは、JS労対策です。妨害を跳ね返し、組織強化・拡大を目指します。

車両との段差と隙間の検証が、JR東海営業本部、関西支社、国交省の外郭団体、障がい者支援団体で行われました。JR東海は「隙間7cm、段差3cmのガイドラインに沿っている」と豪語しましたが、隙間は7.5cmでした。支援団体からは、「JR東海は親方日の丸、上から目線で何もしない」との評価です。

運動領域を広げ組織拡大を！ 本橋事務局次長総括答弁



新大阪駅におけるバリアフリーの検証について発言がありました。JR東海の居丈高な態度が改めて明らかになったと同時に、こうした姿勢を糾していかなくてはなりません。私たちはこの間、リニア中央新幹線建設に反対する市民団体の方たちと交流し連帯感をつくり出してきました。リニアの問題以外にも、憲法9条を守るための闘いも併せて交流しています。私たちの運動領域を広げ、組織拡大の道をつくり出す必要があります。JR東海労連として、共に闘う仲間をつくり出していきましょう。

JR東海労らしく組織展望を切り拓く！ 各地本定期委員会が成功裡に終了

各地本は、2月に定期地本委員会を開催しました。2025春闘をはじめ、JR総連からの組織破壊攻撃を跳ね返し、JR東海労の組織展望を切り拓くための議論を行いました。

新幹線地本第30回定期委員会

新幹線地本は2月15日、第30回定期地本委員会を開催しました。議長に齊藤組合員(車両所班)を選出しました。

伊藤委員長は、挨拶で「第42回臨時大会で、JR総連からの脱退と新たな運動づくりを確認し、1つの区切りをつけた。JR総連からの呪縛が解けた。地本OB会は臨時総会を開催した。当初は会則を変える予定であった。やらせては困るとの思いだ。1部で退会、2部でセンラOB会が結成された。新たなOB会長



を田中さんが引き受けた。共に闘う。春闘では要求を勝ち取るために闘おう」と訴えました。

来賓挨拶では、本部淵上委員長がこの間のJR総連の犯罪性を暴露し、今後JR東海労が進むべき方向性について問題提起を行いました。また、地本OB会田中会長代行からメッセージが寄せられました。

質疑では、「JR総連指導部はガラ幹になり、官僚化した。職場の問題に目が届かない」「JR東海労はJR東海労らしく、幅を持って活動すれば良い」「組織が大きくなると指導者は腐敗する。まずJR東海労組であり、それを指導できなかつたのがJR総連だ。おそらく、松崎さんがご存命でも、手を付けられなかつたと思う。労働者を守るべき労働組合が労働者を守らず、組織を守るために頑張ってしまった」「労働者支援相談センターの運営は勉強しなければならぬ」などの発言

がなされた。土川書記長は、総括答弁で「私たちは新たな静岡地本は2月26日、第34回定期地本委員会を開催しました。開会の冒頭、組合歌を合唱しました。議長に木下組合員を選出しました。

半場委員長は、挨拶で「2025春闘で、地本は本部と連帯して闘う。平和・人権・民主主義の闘いで、袴田さんの無罪を勝ち取った。今後は、天竜林業高校事件を支援し、また、リニアに反対する人たちと共に闘う。『労働者支援相談センター

静岡地本第34回定期委員会

の設立で、地本としても共に闘う。一部OBからの地本の運動に対する妨害が続いている。此田会長に書面を郵送すれば受取拒否である。本部OB会福島元会長から昨夜、組織破壊を目的とした文書が郵送された。今日の委員会に合わせたと考えられる。真面目なOBと共に闘う。地本は地本らしく、JS労の仲間と共に闘おう」と訴えました。

来賓挨拶では、本部淵上委員長と、本部OB会増田会長が行いました。質疑では、「昨日、福島元OB会長から文書



（アクティブ）が郵送された。『現職組合員が会場に乱入した』と書かれているが、通路とロビーにいて乱入はしていない。ウソであり大変迷惑だ。福島氏と直接会って話をしなければならぬ」「要員が不足している」「OB会は現職の方針を支持するものである」「世界的な広がりです。袴田さんの無罪を勝ち取った。再審法改善の闘いを行う。天竜林業高校事件を支援していく」などの発言が出されました。

名古屋地本第35回定期委員会

名古屋地本は2月22日、第35回定期地本委員会を開催しました。議長に太田組合員を選出しました。

松山委員長は、挨拶で「JR東海労がJR総連加盟中にもかかわらず、

（アクティブ）が郵送された。『現職組合員が会場に乱入した』と書かれているが、通路とロビーにいて乱入はしていない。ウソであり大変迷惑だ。福島氏と直接会って話をしなければならぬ」「要員が不足している」「OB会は現職の方針を支持するものである」「世界的な広がりです。袴田さんの無罪を勝ち取った。再審法改善の闘いを行う。天竜林業高校事件を支援していく」などの発言が出されました。

た。共に闘う。物価高騰の中、春闘では満額要求を勝ち取る。本部で『労働者支援相談センター』が提起された。過去、地本に相談があった。助けを求めるとは遅れに遅れ、建設費は青天井になるだろう。株価の低下は、株主から見捨てられていくと考えられる。瑞浪で水涸れ・地盤沈下が問題となっている。地域で活動している仲間と共に取り組んでいく。5月頃にリニア学習会を計画する」と訴えました。

来賓挨拶は、本部畑野副委員長と、地本OB会

質疑では、「脱退者の主張は理解できない。萩野元委員長は『賃上げができれば、おかずを一品減らせば良い』と言ったが、情けない」「業務改革で職場での締め付けが強化されたが、それより上司の意識改革が先

だ。「職場でライセンス（等級付け）が行われているが、合格したい人は会社に媚を売る風土になっている。その試験のための練習は3時間を要するが、1時間しか超勤を付けないのは問題」「2029年に東海と西は解散と言われ、山田哲也氏が松山委員長に介入したのも、組織破壊攻撃として他の地本OBと連携していたことは明らか。本部OB総会で、伊藤明男氏が淵上委員長を糾弾したが、現職を激励する立場でありながら、そういう態度はあってはならない」などの発言が出されました。



御辺書記長は、総括答弁で「萩野元委員長は『センラ労に行ってもJR東海労らしく闘う』とOBの方に言ったが、全く理解できない。OB会員には経過を話し、理解を得た。あるユニオン組合員が、『ユニオンの春闘要求は少ない』と言った。JR東海の賃金は、追いつかれ追い越されて、魅力のない会社になっていく。CMCと団交を行い、少しずつ改善している。更なる要求を申し入れる。リニア建設による地盤沈下などの問題で、地域の意見を集約し、闘いを広めていく。JR総連は、会社に信用される運動をするようだが、私たちは労働者のために闘う」と訴えました。

御辺書記長は、総括答弁で「萩野元委員長は『センラ労に行ってもJR東海労らしく闘う』とOBの方に言ったが、全く理解できない。OB会員には経過を話し、理解を得た。あるユニオン組合員が、『ユニオンの春闘要求は少ない』と言った。JR東海の賃金は、追いつかれ追い越されて、魅力のない会社になっていく。CMCと団交を行い、少しずつ改善している。更なる要求を申し入れる。リニア建設による地盤沈下などの問題で、地域の意見を集約し、闘いを広めていく。JR総連は、会社に信用される運動をするようだが、私たちは労働者のために闘う」と訴えました。

新幹線関西地本第30回定期委員会

新幹線関西地本は2月23日、第30回定期地本委員会を開催しました。議長に西委員(関西地区分会)を選出しました。

笹田委員長は、挨拶で「春闘は本部と連帯して闘っていきます。第42回臨時大会でJR総連からの脱退を決定しました。理由は、石川さん・京力さんの時は支援してくれましたが、今ではJR東海を潰そうと変質しました。今後はJR本体、関連会社など全ての労働者と連帯していきます。本部に労働者支援相談センターを設置します。苦しんでいる人の立場に立つのが労働組合です。協力をお願いします。地本は9条連近畿に脱会を通知しました。事務局が嘘をついて津崎氏を擁護し、新幹線関西地本を排除してきたためです。本部OB会の臨時総会で、解散を目論んだJR総連



派役員と対決してくれた仲間、指導してくれた先輩達が分裂させてきたのです。しかし新たな体制が確立されました。労働組合の組織率は約16%です。団結、労働者・地域との連帯が必要ですよ」と訴えました。

来賓挨拶は、本部成田副委員長、JS労働楽委員長、地本OB会井村OB会長が行いました。質疑では、「浦谷さんが休憩裁判を提訴した。退出点呼後に休憩時間を与えるのは労基法違反。原告と共にプロジェクトで闘いを進める」「期限切れのスリ板が使われ、東京まで走行した。会社に申し入れ、業務委員会が議論する。安全問題は今後も追求する」「サービックでは未だに人員不足による休日出勤が多い。70歳を超えても働いている人もいるが、会社は上から目線の対応である」「OB会員にJR総連派の人からちよっかいが出された。分会として状況報告を行う」「SEK設立40周年レセプションで『給料を上げてくれ』『要員不足解消』などの意見が出された」「津崎裁判で、JR総連と津崎氏は逃げの一手である」「ABCマートの労組(バックアップ)の組合員数は非公認で、二重加盟可

である。組合員数非公認をしている組合はある」などの発言が出されました。浦谷書記長は、「職場からの闘いの実践報告を受けた。これからも切磋琢磨していきたい。JR総連を脱退して自由になつたが、責任もある。JR総連は職場の運動を否定した。これがM組の本質である。私たちは、今委員会でも職場で困っている人と連帯する事を確認した。労働者支援相談センターをつくっても、声が届くように闘いを強化しなければならぬ。小泉さんと共に闘ってき

た。闘いは間違っていない。総括答弁を行いました。

給6,000円(基準昇給額一律1,500円×乗数4)及び現等級経過年数による基準昇給額の通減撤廃、夏季手当3.5ヶ月分プラス10万円、更に専任社員はプラス5万円、扶養手当(配偶者)の廃止反対、子ども手当を基準内賃金にするこ

と、祝日手当の復活、各種増手当の増額、各職種における手当改善、出向社員の休日数、労働時間、JR東海の基準にすること、専任社員の基本給、諸手当、契約満了報

労金改善です。第1回団体交渉は2月20日に開催し、労使とも趣旨説明を行いました。組合は、「今年度の第3四半期決算(連結)は3,768億円の利益を計上し、通期予想では4,100億円に上方修正した。年末年始輸送は、431万5千人、前年比の結果は108%(2018年比105%)となり、過去最高を記録した。組合員・社員は日々の業務

に對して努力し、奮闘した結果である。しかし会社はその奮闘に報いることもなく、期末手当を3.0ヶ月という低額に抑え込んだ。また、昨年の春闘におけるベースアップは、世間相場からかけ離れた極わずかの7,000円であり、大きな格差を生んだ。全社員の気持ちを裏切ると共に、現場で働く全社員の生活設計を破壊した。12月分の消費者物価指数は、2020年を100として110.7と、物価上昇が加速している。現金給与総額指数を消費者物価指数で割った実質賃金は前年比0.2%減で、3年連続の実質的な賃下げである。リニア建設を進めていることは、組合の要求に応える経営体力は十分ある。従って、賃金の大幅改善に誠意ある回答を行うこと」と主張しました。

2025春闘を職場から闘おう！ 賃金団交始まる

JR東海労は2月12日、第38回定期中央委員会の確認に基づき、2025年度賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求の申し入れ(『申第14号』)を会社に提出しました。主な要求項目は、ベア18,000円、定期昇

給6,000円(基準昇給額一律1,500円×乗数4)及び現等級経過年数による基準昇給額の通減撤廃、夏季手当3.5ヶ月分プラス10万円、更に専任社員はプラス5万円、扶養手当(配偶者)の廃止反対、子ども手当を基準内賃金にするこ

と、祝日手当の復活、各種増手当の増額、各職種における手当改善、出向社員の休日数、労働時間、JR東海の基準にすること、専任社員の基本給、諸手当、契約満了報

労金改善です。第1回団体交渉は2月20日に開催し、労使とも趣旨説明を行いました。組合は、「今年度の第3四半期決算(連結)は3,768億円の利益を計上し、通期予想では4,100億円に上方修正した。年末年始輸送は、431万5千人、前年比の結果は108%(2018年比105%)となり、過去最高を記録した。組合員・社員は日々の業務

に對して努力し、奮闘した結果である。しかし会社はその奮闘に報いることもなく、期末手当を3.0ヶ月という低額に抑え込んだ。また、昨年の春闘におけるベースアップは、世間相場からかけ離れた極わずかの7,000円であり、大きな格差を生んだ。全社員の気持ちを裏切ると共に、現場で働く全社員の生活設計を破壊した。12月分の消費者物価指数は、2020年を100として110.7と、物価上昇が加速している。現金給与総額指数を消費者物価指数で割った実質賃金は前年比0.2%減で、3年連続の実質的な賃下げである。リニア建設を進めていることは、組合の要求に応える経営体力は十分ある。従って、賃金の大幅改善に誠意ある回答を行うこと」と主張しました。



交渉委員に檄

第3回団体交渉は2月25日に開催しました。今団交では、ベア、定期昇給、夏季手当、各種手当などについて議論しました。まず組合は、今期の第3四半期の決算が増収・増益であったのは、社員

が上がるのが本来の姿だが、通減や昇格の頭打ちがある制度は、社員間格差を拡大するばかりではなく、昇格できなかつた社員の生活を破壊する制度である。格差を付ける制度は誤りだ。全ての社員に6,000円の定期昇給と通減制度を撤廃せよ」と主張しました。会社は「賃金差別の制度ではない。モチベーションを持つてもらうための制度だ。努力した者は報われる制度だ」と、賃金格差を肯定する回答に終始しました。

夏季手当について組合は、「今期は過去最高の利益を上げようとしている。3.5ヶ月でも少ないくらいだ。プラス10万円は、繁忙を乗り越え、努力した社員への還元であり、満額回答は当然だ。基本給が社員の半分である専任社員には、更に5万円は当然だ」と主張しました。

会社は、ベアの考えと同様な主張を繰り返すのみで、全ての項目について対立しました。



第38回定期中央委員会より